

都市計画部門 一研究協議会

いま、都市に関するプランの役割と機能を考える

[資料あり]

9月13日(水) 13:30～17:00 法経済学部本館 第4教室

司会 柴田 祐(熊本県立大学)

副司会 小林敏樹(北九州市立大学)

記録 藤岡麻理子(國學院大学)

1.主旨説明 野嶋慎二(福井大学)

2.主題解説

①都市に関するプランの展開

中西正彦(横浜市立大学)

②今日のプランの役割・機能と課題

星 卓志(工学院大学)

③プランと都市開発の誘導・調整

姥浦道生(東北大学)

④プランと土地利用の規制・コントロール

松川寿也(長岡科学技術大学)

⑤プランの策定現場と計画システム

高鍋 剛(都市環境研究所)

⑥プラン体系再編の課題

野澤 康(工学院大学)

3.討論 上記登壇者 コーディネーター:中西正彦(前掲)

4.まとめ 桑田 仁(芝浦工業大学)

目標とする都市の理念やビジョンを定めてその実現の道筋を示すこと、すなわちプランを策定することは、都市づくりの重要なプロセスである。今日では行政全般においても公平性・公正性・透明性確保や効率性向上の観点などから、プランの策定が必要とされている。

急激な都市化の時代、計画的な都市基盤整備や乱開発対応の必要性などから、先進的な自治体においていわゆる総合計画が定められ、そのもとで各種の都市整備の取り組みが行われた。1992年の都市計画マスタープランの法定化など都市空間整備の関連分野においても各種プランの導入・充実化が進み、今日では市民生活の目標像提示に重点をおいた総合計画のもと、数多のプランが存在している。

しかし、プランの役割や機能、実現性などには疑問や問題点が指摘されている。また、今日では多くの部門別プランが存在しており、それらの調整に多くの労力が払われている一方、役割や機能の分担に整理すべき課題も見られ、結果として都市行政の実効性にも影響を与えていると思われる。

また、地方都市での開発停滞の一方、大都市では開発が対極的に起きており、いずれにおいても都市づくりの戦略性と機動性や積極的な誘導が求められてきているが、プランに示される長期的な目標と実現手法の実際の運用との間に齟齬が生じている。

これらを背景として本研究協議会では、都市に関するプランの役割と機能を改めて検討し、望ましい都市像の実現という観点からプランと実現手段の関係と取り組むべき課題を考える。